

魚住昌良教授 略年譜と研究業績

- 1930年5月22日 愛知県名古屋市に生まれる
- 1947年12月21日 日本基督教団熱田教会(名古屋)で受洗
- 1950年3月 名古屋学院高等学校卒業
- 同年4月 名古屋大学経済学部入学
- 1952年3月 同大学教養課程修了・退学
- 同年4月 東京大学文学部西洋史学科入学
- 1955年3月 同大学文学部卒業
- 同年4月 東京大学大学院人文科学研究科入学(西洋史学専攻)
- 1957年3月 同大学院修士課程修了
- 同年4月 同大学院博士課程進学
- 同年4月3日 種村優子と結婚
- 同年11月 研究報告「所謂『十二箇条』の成立事情をめぐって」史学会第56回大会西洋史部会
- 1959年9月-1962年3月 ミュンヘン大学に留学、F. リュトゲ教授のゼミナールに参加(DAAD 奨学生、東大大学院休学)
- 1962年4月 東京大学大学院復学
- 同年7月28日 長女由紀誕生
- 1963年3月 東京大学大学院博士課程満期退学
- 同年4月 亜細亜大学専任講師(商学部)
- 同年11月 山梨大学専任講師(学芸学部)
- 1964年5月1日 長男淳史誕生(1965年12月17日没)
- 1966年1月 山梨大学助教授(教育学部)
- 同年10月25日 日本基督教団熱田教会から同教団国分寺教会に転籍
- 1970年7月18日 次女由香誕生
- 同年10月-1972年9月 ベルリン自由大学フリードリヒ・マイネッケ歴史研究所客員研究員・講師「日欧比較史」を担当
- 1972年7月 研究報告“Stadt und Feudalismus in der mittelalterlichen Geschichte Japans”(フランクフルト大学歴史学研究室コロキウム)
- 1973年 研究報告「中世都市における Ministerialität —シュルツ氏の所説をめぐって」(比較都市史研究会例会(東京))
- 1975年3月 山梨大学教授(教育学部)
- 同年4月 国際基督教大学教養学部教授(社会科学科)
- 1976年3月-4月 デンマークで開かれた Commission internationale pour l'histoire

- des villes の年次総会に出席
- 同年 4 月 国際基督教大学大学院教授併任 (比較文化研究科)
- 同年 10 月 研究報告「中世都市とその担い手」(比較都市史研究会第 58 回研究会合同シンポジウム (大阪))
- 1977 年 4 月-1981 年 8 月 国際基督教大学大学院比較文化研究科長
- 同年 10 月 研究報告「都市史における教区の問題—ドイツ—」(比較都市史研究会第 68 回研究会 (東京))
- 1978 年 6 月 研究報告「ヨーロッパ中世都市研究の動向」(歴史学会例会 (東京))
- 同年 11 月 研究報告「ヨーロッパ中世都市研究の現状」(歴史学会第 3 回大会 (東京))
- 1979 年 12 月 研究報告「ニュルンベルクの宗教改革」(宗教改革と都市研究会 (東京))
- 1980 年 11 月-1986 年 10 月 歴史学会理事
- 1981 年 1 月-2001 年 3 月 社会経済史学会評議員
- 同年 10 月-1982 年 9 月 ベルリン自由大学歴史学部客員教授「日欧比較史」を担当
- 同年 12 月 研究報告 “Stadt und Bürgertum in der mittelalterlichen Geschichte Japans” (ベルリン (フンボルト) 大学史学科主催、中世史研究国際シンポジウム「封建社会における進歩と停滞現象の原因 (11-15 世紀)」(旧東ベルリン))
- 1982 年 6 月 研究報告 “Die japanische Stadt im Übergang vom Mittelalter zur Frühneuzeit” (ベルリン自由大学東アジア研究所コロキウム (西ベルリン))
- 1983 年 1 月-現在 比較都市史研究会幹事
- 同年 2 月 研究報告「日欧比較史の試み—中世都市の指導層」(国際基督教大学アジア文化研究所公開講演会)
- 同年 4 月-1993 年 3 月 国際基督教大学アジア文化研究所長
- 同年 8 月 北海道大学法学部法制史教室主催の札幌セミナー (北海道大学) に参加、報告「ミニステリアル論についてのコメント」
- 1984 年 6 月-1988 年 3 月 国際基督教大学大学院部長
- 同年-1985 年 東京ドイツ文化センター主催の国際的・学際的シンポジウム：中世シンポジウム I「工房か芸術家」、中世シンポジウム II「中世の都市空間と市民—日本とドイツ比較—」(ドイツ文化会館) の企画・組織に参加、研究報告「日独中世都市比較研究の視角と問題点」

- 1986年4月-1987年3月 国際基督教大学大学院理学研究科設置実行委員会副委員長
- 同年9月 社会経済史学会大会共同シンポジウム「都市共同体とギルド」を組織、総合司会を担当（成果は『社会経史学』53-3 1987に収録）
- 1987年9月 国際基督教大学アジア文化研究所共同プロジェクトシンポジウム「アジア的伝統の両義性とその創造的可能性」（湯島ガーデンパレス）で研究報告「都市の伝統の比較—日本とヨーロッパ—」
- 同年10月 国際基督教大学アジア文化研究所主催のシンポジウム「アジアの封建制」（ICU）を組織、問題提起と総合司会を担当
- 1988年4月-5月 第1回日韓中世国際シンポジウム（ソウル高麗大学）に参加、研究報告“Forschungstrend der deutschen mittelalterlichen Stadt in Japan”
- 同年10月 国際基督教大学アジア文化研究所主催のシンポジウム「中世末期近世初期の民衆蜂起—日本とドイツの比較—」（ICU）を組織、ブリックレ教授報告の通訳と総合司会を担当
- 1989年3月 歴史学会例会で報告「シンポジウム『都市と都市性』についてのコメント」
- 1990年4月 Joint Annual Meeting of the Medieval Academy of America and the Medieval Association of the Pacific（カナダ、ヴァンクーヴァー）に参加、研究報告“Changes in the Image of European Medieval Towns as Reflected in Recent Japanese Historical Scholarship”
- 同年9月 日独中世史学コロキウム（ボン大学東アジア研究所）に参加
- 1991年5月 第2回日韓中世史国際シンポジウム（東京）に参加、司会を担当
- 同年6月 『ドイツの古都と古城』（山川出版社）上梓
- 1993年5月-1999年5月 日本西洋史学会理事（理事校の代表として）
- 1994年5月 日本西洋史学会第44回大会をICUで開催（シンポジウムテーマ「ソシアビリテ論の射程」）
- 1995年3月 研究報告「＜社会的統合＞の変質—中世ドイツ人集団の場合」（国際基督教大学アジア文化研究所研究会）
- 1996年3月 国際基督教大学定年退職
- 同年4月 国際基督教大学大学院教授（比較文化研究科）
- 同年5月-2001年3月 文部省教育用図書審議会委員
- 1997年5月 第4回日韓ヨーロッパ中世史国際シンポジウム（東京都立大学）に参加
- 1998年1月 将棋（アマ）5段取得（日本将棋連盟）
- 同年6月 比較都市史研究会シンポジウム「中世ドイツの戦争と平和」にコ

- メンテイターとして参加
- 同年 9 月 研究報告「ヨーロッパ中世の戦争と平和-西ドイツの<ラント平和>」(歴史懇話会 (ICU))
- 同年 10 月 宗教改革史研究会・国際基督教大学アジア文化研究所共催のシンポジウム「民衆蜂起の心性—ヨーロッパと東アジアの比較」(ICU) を企画・組織、総合司会を担当 (成果は M. W. スティール・魚住昌良編『変動するアジア』(アジア文化研究別冊 9、2000) に収録)
- 1999 年 3 月 比較都市史研究会シンポジウム「ドイツ近世都市の市政とゲマインデ」にコメンテイターとして参加
- 2000 年 6 月 比較都市史研究会・国際基督教大学アジア文化研究所共催のシンポジウム「中世都市と宗教集団」を企画・組織・総合司会を担当 (要旨は『比較都市史研究』19-2、2000 に収録。全体の記録は『アジア文化研究』別冊 12 号 (近刊) に収録の予定)
- 2001 年 2 月 15 日 国際基督教大学の最終講義「中世ヨーロッパ商人の出自」
- 2001 年 3 月 国際基督教大学大学院教授を任期満了により退職
- 同年 4 月 東京神学大学、ルーテル学院大学非常勤講師
国際基督教大学アジア文化研究所顧問 社会科学研究所顧問
- その他 1963 年-現在 東洋大学、東京女子大学、津田塾大学、聖心女子大学、東京神学大学、ルーテル神学大学 (現ルーテル学院大学)、法政大学、山形大学、千葉大学、お茶の水女子大学 (大学院)、山梨英和短期大学、桐朋学園大学 (短期大学部) などの非常勤講師、朝日カルチャーセンター (新宿、横浜)、各種市民講座 (川崎市、千葉市、横浜市、東京渋谷区) などの講師

〈著書・編著・共編著〉

- (分担執筆) 林健太郎編『ドイツ史(新版)』(三章、四章) 山川出版社 1977 (改訂増補版 1991) 158-225 頁
- (分担執筆) 松田智雄編『西洋経済史』(三編 12) 青林書院新社 1982 (5版 1989) 82-87 頁
- 魚住昌良編著『アジアの封建制』(アジア文化研究別冊 1) アジア文化研究所 1990 vi + 112 頁
- 魚住昌良編『伝統と近代化—長清子教授古稀記念論文集』(アジア文化研究別冊 2) アジア文化研究所 1990 vi + 298 頁
- 『ドイツの古都と古城』山川出版社 1991 (7刷 2002) vii + 241 頁
- 魚住昌良・M. ウィリアム・スティーアール編『近代化と価値観—源了圓教授古稀記念論文集』(アジア文化研究別冊 3) アジア文化研究所 1992 iii + 304 頁
- 比較都市史研究会(魚住昌良)編『比較都市史の旅 時間・空間・生活』原書房 1993 ii + 309 + 12 頁
- 魚住昌良・葛西實編『宗教的意識と現代世界』(アジア文化研究別冊 4) アジア文化研究所 1993 v + 205 頁
- 魚住昌良・荒木亨編『近代の都市空間と言語空間』(アジア文化研究別冊 5) アジア文化研究所 1994 iii + 100 頁
- (分担執筆) 今井宏編『人物の世界史 西洋編』①山川出版社 1995 74-77、78-81、110-113 頁
- 魚住昌良・M. ウィリアム・スティーアール編『近代化の思想的系譜—小泉仰教授古稀記念論文集—』(アジア文化研究所別冊 7) アジア文化研究所 1997 x + 272 頁
- M. ウィリアム・スティーアール・魚住昌良編『変動するアジア』(アジア文化研究別冊 9) アジア文化研究所 2000 97 + 18 頁
- 『世界歴史の旅 ドイツ 古都と古城と聖堂』山川出版社 (近刊)

〈翻訳書〉

- (翻訳分担) 『ルター著作集』第1集第5巻、聖文舎 1967 487-589 頁
- (翻訳分担) 松田智雄編『世界の名著 18 ルター』中央公論社 1969 (普及版 5版 1992) 261-270 頁
- (翻訳分担) 松田智雄編『世界の名著 18 ルター』中央公論社 1969 (普及版 5版 1992) 333-380 頁
- (共訳) M. ガイガー『ドイツ教会闘争』日本基督教団出版局 1971 174 頁 (共訳者 佐々木悟史)
- (共訳) F. レーリヒ『中世ヨーロッパ都市と市民文化』創文社 1978 (10刷 1997) 169 + 25頁 (共訳者 小倉欣一)

- (監訳) H. R. ロイン編『西洋中世史事典』東洋書林 1999 684 頁
- (監訳) S. ハフナー『図説 プロイセンの歴史』東洋書林 2000 (3刷 2002) 394 + x viii 頁
(共訳者 川口由紀子)
- (翻訳分担) K. ボールズ著 平城照介・山田欣吾・三宅立監訳『ヨーロッパ社会の成立』東洋書林 2001 434 頁

〈論文・研究ノートなど〉

- 「所謂『十二箇条』の成立事情をめぐって」『亜細亜大学諸学紀要』10号 1963 1-20 頁
- 「ドレスタットの消長—北欧遠隔地商業と中世都市起源論—」『亜細亜大学諸学紀要』11号 1964 43-57 頁
- 「ドイツにおける歴史教育の現状」『歴史教育』12-3 1964 77-84 頁
- 「ヴィク学説の問題点」『山梨大学学芸学部研究報告』15号 1964 29-34 頁
- 「上シュヴァーベン基督教同盟 その規約と草稿の比較」『山梨大学学芸学部研究報告』16号 1965年 40-48 頁
- “Die mittelalterliche Stadt in der Perspektive zur modernen Gesellschaft I” 山梨大学『歴史学論集』10 1966 24-33 頁
- “Die mittelalterliche Stadt in der Perspektive zur modernen Gesellschaft II” 山梨大学『歴史学論集』11 1967 35-45 頁
- 「ルター『商業・利子論』の社会的背景」山梨大学『歴史学論集』12 1968 1-7 頁
- 「ルターの贖宥論題提示をめぐる論争点」山梨大学『歴史学論集』13 1969 36-43 頁
- 「ヨーロッパ中世都市史研究の視角について」山梨大学『歴史学論集』14 1970 35-42 頁
- “Bemerkungen zu Fragestellungen und Ergebnissen der japanischen Stadtgeschichtsforschungen — Ein Versuch zu den vergleichenden Studien von Japan und Europa” 山梨大学『歴史学論集』15 1971 58-68 頁
- “Der Ewige Rat” 研究の史料—ミュールハウゼン市文書館の刊行文書から—」山梨大学『歴史学論集』16 1972 58-68 頁
- 「Ewiger Rat に関するミュールハウゼン市の公文書」山梨大学『歴史学論集』17 1973 54-62 頁
- 「中世都市におけるミニステリアル—シュルツ学説を中心として—」『山梨大学教育学部紀要』5号 1974 56-78 頁
- 「Ewiger Rat に関するミュールハウゼン市の公文書 (続)」山梨大学『歴史学論集』18 1974 14-22 頁
- 「ドイツ中世都市研究における司教都市」『社会科学ジャーナル』13号 1975 101-119 頁
- 「中世都市ケルンの指導層」『社会科学ジャーナル』14号 1976 19-31 頁
- 「中世都市とミニステリアル層」『津田塾大学紀要』8号 1976 73-89 頁

- 「中世都市ケルンの指導層（続）」『社会科学ジャーナル』15号 1977 171-189頁
- 「各国の世界史像—教科書の比較研究—」『世界史像の研究』2号 アジア文化研究所 1977
1-85頁（研究協力者：葛西実ほか8名）
- 「ハインリヒ四世帝とライン司教都市」『社会科学ジャーナル』17号 1979 149-165頁
- 「ヨーロッパ中世都市像の転換」『アジア文化研究』11号（大塚久雄教授古稀記念論文特集号）
1979 167-178頁
- 「ヨーロッパ中世都市史の研究状況」『史潮』新6号 歴史学会 1979 40-64頁
（分担執筆）「ヨーロッパ中世都市史研究の動向」（共同執筆者 水野綱子、鷗川馨）『日本史
研究』200 1979 125-144頁
- 「中世都市ボンの形成と古代文化の連続・非連続問題」『アジア文化研究』13号（異質文化の
交流特集—山本達郎、海老沢有道教授古稀記念論文集）1981 149-167頁
- “Die japanische Stadt im Übergang vom Mittelalter zur Frühneuzeit”, *Berliner Beiträge zur sozial-
und wirtschaftswissenschaftlichen Japan-Forschung* (Occasional Papers) 21, Ostasiatisches
Institut, Freie Universität Berlin, 1982, pp.114-129
- “Stadt und Bürgertum in der mittelalterlichen Geschichte Japans”, *Jahrbuch für Geschichte des
Feudalismus* 7, Akademische Verlag Berlin, 1983, pp.114-129
- “The Japanese Town in the Transition from Medieval to Early Modern Times”, *Asian Cultural
Studies* 14, 1984, pp.3-19
- 「バルメン宣言の歴史的背景—北西ドイツ改革派教会の場合」『聖書と教会』（バルメン宣言
50周年特集）218 1984 2-7頁
- 「日欧比較史の試み—中世都市の指導層」『アジア文化研究』15号 1985 3-17頁
- 「『都市共同体とギルド』をめぐる問題点と課題」『社会経済史学』53-3 1987 155-168頁
- “Forschungstrend der deutschen mittelalterlichen Stadt”, *Reports of The First Korean-Japanese
Symposium on the Medieval History of Europe*, Korean Univ. 1988, pp.1-7
- 「アジアの封建制—比較史的対話の提言—」魚住昌良編著『アジアの封建制』（アジア文化研
究別冊1）1990 3-11頁
- “Changes in the Image of European Medieval Towns as Reflected in Recent Japanese Historical
Scholarship,” 魚住昌良編『伝統と近代—長清子教授古稀記念論文集—』（アジア文化
研究別冊2）296-286頁
- 「中世都市ケルンの地誌断想—メルカトールの市街図から知り得ること」比較都市史研究会
編『都市と共同体』上 名著出版 1991 139-152頁
- 「一〇七四年ケルンの市民と大司教」魚住昌良、ウィリアム・スティール編『近代化と価値
観—源了圓教授古稀記念論文集—』（アジア文化研究所別冊3）1992 119-130頁
- 「ヨーロッパ中世都市の形成 ケルンの古代と中世」比較都市史研究会編『比較都市史の旅
時間・空間・生活』原書房 1993 1-35頁

- 「ヨーロッパ中世の鐘と『共同体』—ハーヴェルカンプ教授の近業を中心に—」 魚住昌良・
M. ウィリアム・スティール編『近代化の思想的系譜—小泉仰教授古稀記念論文集—』
(アジア文化研究所別冊7) 1997 149-159 頁
- 「ドイツのブルクにみる中世城砦の実態と分布」『戦略戦術兵器事典 ヨーロッパ城郭編』学
習研究社 1997 126-133 頁

〈論文翻訳〉

- (共訳) M. ルター「商取引きと高利について」『ルター著作集』第1集第5巻、聖文舎
1967 487-589 頁 (共訳者 松田智雄)
- 農民戦争文書「シュヴァーベン農民の十二カ条」松田智雄編『世界の名著 18 ルター』中央
公論社 1969 (普及版5版1992) 261-270 頁
- M. ルター「商業と高利」松田智雄編『世界の名著 18 ルター』中央公論社 1969 (普及版5
版1992) 333-380 頁
- K. シュルツ「後期中世及び近世初期上ライン諸都市の職人と賃労働者」『社会経済史学』39-5
1974 28-47 頁
- H. ヘルビック「十五世紀ブランデンブルク辺境領の都市—その領邦主権と貴族諸身分とに
対する闘争について—」『社会経済史学』40-6 1975 1-23 頁
- E. エンネン「ドイツにおける都市史研究の現状—組織・テーマ・方法」『西洋史学』110
1978 38-53 頁
- K. シュルツ「ザリエル朝後期およびシュタウフェル朝時代の王権と諸侯と都市—参事会制度
の成立をめぐる—」『社会経済史学』45-2 1979 50-69 頁
- T. ロスワノフスキー「中世都市成立の社会地誌的諸問題—西欧と中欧との比較」『比較都市
史研究会会報別冊』1981 17-25 頁
- K. シュルツ「ドイツにおけるツunftおよび職人制度研究の新動向」『比較都市史研究』2-2
1983 12-30 頁
- B. テップラー「中世後期ヨーロッパにおける都市の地位—特にドイツとフランスの場合—」
『比較都市史研究』7-1 1988 39-54 頁
- K. シュルツ「ファミリアから都市共同体へ—荘園法下の住民集団が市民的自由諸特権を獲得
する過程—」『比較都市史研究』11-2 1992 13-54 頁
- D. ゴイエニヒ「中世ライン地方の都市建設」『比較都市史研究』12-2 1993 13-27 頁
- K. シュルツ「ルネサンス期ローマの特権的マイノリティーたるドイツ人手工業者集団—15世
紀初頭から16世紀中葉まで」『比較都市史研究』14-1 1995 13-28 頁
- ウェルナー O. パックル「農民戦争と再洗礼派」M. ウィリアム・スティール・魚住昌良編
『変動するアジア』(アジア文化研究別冊9) 2000 51-65 頁
- (共訳) K. ボールズ「中世レーゲンスブルクの社会構造」平城照介他監訳『ヨーロッパ社会

の成立』東洋書林 2001 255~293 頁 (共訳者 三佐川亮宏)

(共訳) K. シュルツ「シトー修道会と都市— 12 世紀後半から 13 世紀末—」『アジア文化研究』別冊 12 <近刊> (共訳者 早川朝子)

<書評>

G. シュモラー著、瀬原義生訳『ドイツ中世都市の成立とツンフト闘争』(未来社)『歴史と地理』245号 1976 61頁、『社会経済史学』43-3 1977 96-99 頁

W. ニーメラー・G. ハーダー編、雨宮栄一訳『ナチへの抵抗』『本のひろば』41 キリスト教文書センター 1978 24-25 頁

林毅『ドイツ中世都市と都市法』『史学雑誌』91-2 1982 91-98 頁

脇田晴子『日本中世都市論』『社会経済史学』14-4 1982 102-105 頁

H. プラーニッツ著、林毅訳『中世ドイツの自治都市』『日本経済新聞』1983年11月28日

桜井利夫「ドイツ中世都市におけるミニステリアーレン層—クヌート・シュルツ学説の批判的検討」『法制史研究』33 1984 317-319 頁

林毅「中世末期ケルン市における政治的動乱—『平民都市』の実態—」『法制史研究』39 1990 377-380 頁

江村洋『カール五世—中世ヨーロッパ最後の栄光』『東京新聞』1992年8月16日

ハンス・K. シュルツェ著 千葉徳夫他訳『西欧中世史事典』(ミネルヴァ書店 1997)『ドイツ研究』26 1998 39-40 頁

<その他の出版物>

「ロマンティッシュ・シュトラッセ」座右宝刊行会編『ヨーロッパの城と宮殿』小学館 1968 61-68 頁

「ドイツ農民戦争 圧殺された政治的権利と自由への要求」児玉幸多・松田智雄・田村実造編『日本と世界の歴史 13 16 世紀』学習研究社 1970 346-349 頁

学習研究社『グランド百科事典』(ヨーロッパ中世史・ドイツ史関係数十項目執筆) 1970-74

日本メールオーダー社『アルファ大世界百科』(ヨーロッパ史関係数項目執筆) 1970-75

平凡社『小百科事典』(ドイツ近世史関係数十項目執筆) 1973

「ヨーロッパ都市史—中世から近代へ—」『世界史のしおり』帝国書院 1975 5-8 頁

「各国の教科書からみた世界史像」『歴史と地理』263 山川出版社 1977 15-23 頁

(連載)「ドイツの古城 ①—⑫」『基礎ドイツ語』28-1~12 三修社 1977-1978

(連載)「ドイツの古都 ①—⑫」『基礎ドイツ語』29-1~12 三修社 1978-1979

第一法規『教育学大事典』(思想史関係の数項目執筆) 1978

「津田塾大学井上ゼミの教科書批判をめぐって」『歴史と地理』281 山川出版社 1979 26-27 頁

- 「ヨーロッパの商人について」『歴史と地理』281 山川出版社 1979 20-21 頁
- 「ハンザ同盟の特質と由来」『世界史シリーズ』119 帝国書院 1979 1 頁
- 「外国にみる家庭教育—ドイツ—」『指導と評価』（特集 家庭教育に何を望むか）25-12 日本教育評価研究会 1979 21-23 頁
- 「中世ケルンのミニステリアル層について—林毅氏の御質問にたいして」『比較都市史研究会会報』6-2 1980
- 「西欧中世都市史像転換の意味」『毎日新聞』1980年3月7日（夕刊）
- （随筆）「中世の市壁と現代の壁」『歴史と地理』330 山川出版社 1983 26-28 頁
- （随想）「フォーラム—訳語と比較文化研究」『比較都市史研究』2-2 1983 1 頁
- （学会報告）「封建社会における進歩と停滞現象の原因（11-15世紀）」於（旧東）ベルリン・フンボルト大学主催『比較都市史研究』1-1 1982 52-56 頁
- 「鎖国研究の問題点」『史潮』（東アジアの鎖国特集）新15号 1984 2-5 頁
- 平凡社『平凡社大百科事典』1-18 巻（ヨーロッパ都市史関係数項目執筆）1984-1985
- （解説）「中世の商人」江上波男他編『世界史写真集』第1期 山川出版社 1984
- （解説）「中世の商人と職人」江上波男他編『世界史写真集』第1期 山川出版社 1984
- （講演）「文化の連続と非連続—ドイツ中世都市の成立をめぐって」『国際基督教大学図書館公開講演集』第1集 1985 35-75 頁
- （解説）「ノイシュヴァンシュタイン城の建設ができたのはなぜ？」『歴史読本ワールド』3 1986 142-143 頁
- （解説）「神聖ローマ帝国の創始者オットー大帝」『歴史読本ワールド』5 1986 64-65 頁
- （補加筆）「神聖ローマ帝国の創始者 オットー大帝」『世界の王室と国王女王』（歴史読本ワールド別冊）新人物往来社 1993 92-95 頁
- （解説）「教皇に破門されたハインリヒ四世」『歴史読本ワールド』5 1986 66-67
- （補加筆）「カノッサの屈辱 ハインリヒ 4 世」『世界の王室と国王女王』（歴史読本ワールド別冊）新人物往来社 1993 95-97 頁
- （解説）「獅子公と対決したフリードリヒ赤髭王」『歴史読本ワールド』5 1986 67-69 頁
- （補加筆）「封建騎士の理想像 フリードリヒ赤髭王」『世界の王室と国王女王』（歴史読本ワールド別冊）新人物往来社 1993 98-101 頁
- （解説）「フッガー財閥の援助で即位したカール 5 世」『歴史読本ワールド』5 1986 69-71
- （補加筆）「フッガー財閥援助で即位 カール 5 世」『世界の王室と国王女王』（歴史読本ワールド別冊）新人物往来社 1993 101-104 頁
- （解説）「列強に覇を唱えたフリードリヒ大王」『歴史読本ワールド』5 1986 71-72
- （補加筆）「列強に覇を唱えたフリードリヒ大王」『世界の王室と国王女王』（歴史読本ワールド別冊）新人物往来社 1993 104-106 頁
- （解説）「苦難を克服した女帝マリア・テレジア」『歴史読本ワールド』5 1986 72-73 頁

- (解説)「ドイツ農民戦争—地上に〈神の国〉を」『歴史読本ワールド』7 1987 90-93 頁
- (補加筆)「ドイツ農民戦争」『世界の歴史』(歴史読本ワールド別冊) 新人物往来社 1993 96-102 頁
- (解説)「ネーデルランドの内と外—北方ルネサンス期の政治的背景」『ぎゃらりい』7 1987 6-7 頁
- (連載)「ドイツの古城と歴史 ①-⑫」『NHKテレビ・ドイツ語講座』1988年4月-1989年3月
- (解説)「幸福な女帝マリア・テレジア」『歴史読本ワールド』12 1988 114-121 頁
- (補加筆)「マリア・テレジア 幸福な女帝」『世界の王室と国王女王』(歴史読本ワールド別冊) 新人物往来社 1993 352-361 頁
- (解説)「壁から見る逆ドイツ史:分裂と割拠のなかから—1871年以前」『基礎ドイツ語』1990年5月 VII-VIII 頁
- (解説)「deutsch とはなにか—ドイツのルーツ」『基礎ドイツ語』1991年5月 X-X1 頁
- (随想)「古都の“市壁”随想」『旅なかま』朝日新聞事業 1992年7月
- (要約とコメント)「D. ゴイエニヒ講演。中世下ラインの都市建設」『比較都市史研究』12-1 1993 10-11 頁
- (解説)「ハプスブルク家がオーストラリアとスペインに分立した理由は? フェルディナント一世」『ハプスブルク家の謎』(歴史読本ワールド特集号) 1994 44-47 頁
- (補加筆)「フェルディナント一世—ハプスブルク家がオーストリアとスペインに分立した理由は?」『ハプスブルク家とウィーン百科』(季刊歴史読本ワールド7-1) 1996 72-75 頁
- (解説)「三十年戦争を押し進めたのはなぜか? フェルディナント二世」『ハプスブルク家の謎』(歴史読本ワールド特集号) 1994 54-57 頁
- (解説)「改革が挫折した原因は何か? ヨーゼフ二世」『ハプスブルク家の謎』(歴史読本ワールド特集号) 1994 68-72 頁
- (補加筆)「ヨーゼフ二世—改革が挫折した原因はなにか?」『ハプスブルク家とウィーン百科』(季刊歴史読本ワールド7-1) 1996 182-186 頁
- (解説)「神聖ローマ帝国解体の背景は? フランツ二世」『ハプスブルク家の謎』(歴史読本ワールド特集号) 1994 73-77 頁
- (補加筆)「フランツ二世—神聖ローマ帝国解体の背景は?」『ハプスブルク家とウィーン百科』(季刊歴史読本ワールド7-1) 1996 190-194 頁
- (要約とコメント)「K. シュルツ「ルネサンス期ローマの特権的少数者たるドイツ人手工業者集団—15世紀初頭から16世紀中葉まで」『比較市史研究』13-2 1994 8-9 頁
- 「中世ドイツの都市形成」『分権化時代のコミュニティ』ICU社会科学研究所三鷹まちづくり

研究会1995 112-119頁

「＜会議は踊る＞ウィーン会議の帰結」『ハプスブルク家の悲劇』（歴読本ワールド特集号）

1995 120-125 頁

（補加筆）「フランツニ（一）世—＜会議は踊る＞ウィーン会議帰結」『ハプスブルク家とウ

ィーン百科』（季刊歴史読本ワールド7-1）1996 204-209 頁

（解説）「フランクからフランスへ」『歴史群像』25号 1996 14-15 頁

（シンポジウム コメント）「フェーデと戦争と平和—シンポジウム〈中世ドイツの戦争と平和〉におけるヤンセン、小倉両教授の報告をめぐって—」『比較都市史研究』17-2

1998 39-40 頁

「カール・マルテルとトゥール・ポアティエの戦い」『英雄と戦史』（別冊歴史読本 13）新人物往来社 1999 76-81 頁

「オットー 1 世とレヒフェルトの戦い」『英雄と戦史』（別冊歴史読本 13）新人物往来社 1999 92-95 頁

「民衆蜂起の心性をめぐる二、三の問題点」（シンポジウム「民衆蜂起の心性—ヨーロッパと東アジアの比較」のあとがき）M. ウィリアム・スティール・魚住昌良編『変動するアジア』（アジア文化研究別冊 9）2000 79-90 頁

（要約とコメント）「K. シュルツ講演。シトー修道会と都市—12 世紀後半から 13 世紀末—」『比較都市史研究』19-2 2000 2-3 頁